

防災ラジオドラマ

グループ 「札幌日本大学高等学校」

タイトル 「TSUNAMI」

【第一場面 津波発生】

ナレーター 「1993年7月12日 北海道・奥尻 午後10時17分」

SE 「津波警報の音」

アナウンサーA 「先ほどの地震で大津波警報が出されております。気象庁は北海道から東北地方までの日本海沿岸に……」

OPC 札幌日本大学高等学校放送局制作

『TSUNAMI 失い得たもの、伝えたい想い』

アナウンサーA 「予想される津波の高さは高いところではおよそ3mに達する見込みです。」

優希語り 「避難した方が良いという話になり、寝たきりのじいちゃんを母が背負い避難しようとしていた。」

実 「じいちゃん、津波くるってき、逃げようね。」

光造 「ああはいはい。」

優希 「早くしないと！」

実 「あんたもじいちゃん起こすよ、ほら、手伝って！」

優希語り「それはあつというまの出来事だった。」

SE 「水の音」

優希「うん。あ！一階に水が上がってきてる！」

実 「大丈夫。すぐ退くでしょ。」

優希「ほんとだ。今だ！早く逃げよう！」

SE 「水にのまれる音」

優希語り「突然衝撃が走った。その後、真っ暗な水の中に僕はいた。堅いものが体のあちこちに激しくぶつかって。何が何だかわからなかった。やっと水面に顔を出したとき炎が見えた。火事なのか……。お母さんとじいちゃんは……。僕は死ぬのだろうか……。記憶があるのは……。ここまでだ。」

【ベッド】

優希語り「気がつくところこはもう病院だった。何日経ったのだろう。体のあちこちが痛む、お母さんとじいちゃんはとうなっただろう……。そんなことを考えているうちに、時間だけが過ぎていった。」

【数日後待合室】

優希語り「病院のTVでは絶え間なくニュースが流れている。震源地は奥尻島のすぐ北あたりらしい。津波は3mではなく高いところで30m、この青苗は6・7mの津波が襲ったらしい。しかも・あのニュースが流れているとき、津波の第一波はすでに奥尻島に到達していた。もっと早く放送できなかったものか・・・もっと正確に放送できなかったものか・・・」

SE「津波警報の音」

アナウンサーA「大津波警報が出されております。先ほどの地震で大津波警報が出されております。気象庁は北海道から東北地方までの日本海沿岸に午後10時22分大津波警報を出しました。予想される津波の高さは高いところではおよそ3mに達する見込みです。」

【病院での出会い】

優希語り「僕は病院でボランティアに入っている女の子に出会った。」

優希「あ・・・美幸ちゃん・・・だよね・・・？」

美幸「えっ・・・優希君？久しぶり。」

優希「久しぶり。お姉ちゃんに似てきたね。」

美幸「えっ、お姉ちゃんに？」

優希語り「彼女も家族の行方がわからなくなってしまったようだ。そんな状況なのになぜボラ

ンティアができるのか・・・。」

美幸「自分よりずっとひどい状況の人がいるのに、いつもでも悲しんでるだけじゃいけないの
かなって思ったから。 前向きに考えていかなきゃって……。」

優希語り「あのととき彼女が言ったその言葉で、自分も少し頑張らなきゃという気になった。そ
して時々病院に来る彼女がいつしか心の支えになっていた。

美幸「もうすぐ、退院だね……。」

優希「うん……あの……退院したら……連絡していいかな……。」

美幸「えっ……いいよ。」

優希語り「両親と祖父の死を聞かされたのは震災からだいぶ経ってからだった。そのときも彼
女が励ましてくれた。僕は彼女に支えられてあの震災を乗り切ることができたんだ。
時々あの日のことを思い出す……津波情報のことも。」

優希語り「あれから20年近くの月日が流れた。奥尻で起きた地震と津波でかけがえのない、
家族を失った。だが、そのことで今の妻と出会い、子供がいる。一昨年、東日本大
震災が起きた。壊滅状態の福島の町。」

優希「福島に行かないか、一緒に。」

美幸「え……どうしたの？」

優希「東北にボランティアとして行きたいんだ、あのととき君が僕の支えになってくれたように
今度は自分がだれかの支えになりたいんだ。どうだろう？」

美幸「うん、いいよ。」

優希「ありがとう。」

優希語り「たくさんの力が集まれば大きな力になる。温かい心が生きる希望を支えてくれると信じている。

けれど、地震や津波はいつ起こるかわからない。幸せな日常生活が一瞬にして失われる悲劇。あの日のことを今でも思い出す。もっと早く避難できさえすれば・・・警報が迅速なら、いち早く避難できるんだ。」

SE「最新の津波警報の音」

アナウンサーB「津波警報です！東北地方に津波警報が出されました！急いで逃げてください！東日本大震災を思い出してください！津波は予想される高さを超えてきます！急いで逃げてください！自分の命を大切にしてください！岸より遠い所にいくよりも高いところを目指して下さい！また、津波は何度もやってくるので一度退いても警戒を続けてください！絶対に海岸には・・・」

EDC「制作は札幌日本大学高等学校放送局でした。」